

丹沢：小川谷廊下

- ◆日程 2020年8月29日(土)
 ◆メンバー L: MD、TY、OD、SD、IT、OM
 ◆天候 晴

小川谷にはいつも辛酸を舐めさせられてきた。おとし8月、第1次小川谷は大岩で時間切れ。同月中に行った第2次は圧倒的な水量で勝負にならず。このヒリヒリした思い。「しばらく行かないよ。」とケツをまくり、去年はそっとしておいた。ようやく、ほとぼりが冷めた。行く気になる。「少雨で、水量がない」と風の噂。「行けるかもしれない」という希望が湧いた。

7～9月は車両通行止めで穴ノ平橋まで徒歩アプローチ。前回より橋に近い地点から入溪。小川谷出合いから登り返し。すぐに第一関門のCS(チョックストーン)。以前は右側にも重い水流があって、それに抗してシュリングと腕力を頼りに登ったが、今回は水流がゼロ。そのかわり、途中のピンが意図的に叩き潰され、シュリングも取り払われていた(先に書いてしまうが、大岩のロープも外されていた。これらは「力量のない者が小川谷に入るな」という何者かの意向か? しかし、そんなことをする必要はあるだろうか。ちょっと意味が分からない。)。CSはITさんが鮮やかに登り、シュリングをかけてくれたので、それを使った。

私は久々の沢でビビりがあって、終了点まで行くことを主眼に、とにかく登りやすいところを選んだ。一方、ITさんとTYさんは、果敢に水線を登り、水圧に押し返されても更に立ち向かう姿は、実に勇猛で楽しそうだったが、岩に飛びつく姿は蛙のようなひたむきさもあった。深い釜の青さが美しい。

前回は水流で足払いを喰らうほどだったので、ずっと高巻るように歩いた。しかし、今回は、水線近くを歩き通すことができた。そのため途中の光景は前回の記憶と一致しない。そして、大岩は前述のとおりロープがなかったが、ここでもITさんの活躍でクリア。また、水量の少なさゆえに大岩の下をくぐることもできて、TYさんはそちらを越えていった。



石棚のゴルジュ、渦巻く滝を前にして水深のある右の壁際の頭上にぶら下がるシュリング。前回、「これ、どうやって使えばいいの?」となって手詰まり、撤退となった地点。今回、打って変わって滝がおとなしく、それを使わず水線を登ることができそう。ODさんがトップで登り、一時、セミ化する場面もあったが、SDさんのヘルプで、クリア。仲間は素晴らしい。

その先は、余裕が出てきて水につかって「足がつかない!」とはしゃいだり、流されてみたり、ザックの浮力を楽しんだりした。新たに導入したウエットスーツは役に立つ。

終了点近くには崩壊しつつある堰堤があり、前文明の古代遺跡風とかいわれるがどうか。それにしても、まだ堰堤としての形が残り過ぎている。それでも、たどり着いてホッとします。

武装解除、下山開始。なぜ、あんなところまで堰堤を作ったのか、と考えた。下に発電所があることから、砂が嫌だったのだろうか。KN歩いている中ノ沢経路は建設のためのものか。そうするとSTさんが黒部になぞらえて、小川谷廊下=下の廊下、下の発電所=黒四ダム、中ノ沢経路=水平歩道というのも理に適うかな。そんなことを思いながら歩いた。(記:OM)

CT: 玄倉バス停先駐車場 8:10 - 穴ノ平橋手前(入溪点) 9:20 - 小川谷出合 10:20 - 5mCS 10:30 - 大岩 12:30 - 古代遺跡風の崩壊堰堤 15:00 - 東沢出合先(終了点) 15:45/16:00 - 入溪点 17:00/17:15 - 駐車場 18:30